

ワールド・カフェを通じたアサーティブ対話の実践

授業者 附属高等学校池田校舎 高市 佳名子

1. 対象 附属高等学校池田校舎 第1学年2組(41名)

2. 単元目標 or 題材目標

・知識及び技能に関して

ワールド・カフェにおいて、話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。(1)イ

・思考力、判断力、表現力等に関して

論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。(A 話すこと・聞くこと オ)

・学びに向かう力、人間性等に関して

ワールド・カフェの準備や実施を通して、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(3)

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

本単元は、池田地区がめざす「グローバル市民」を表すコモン・ルーブリックのうち、「寛容な人」に関連する。高等学校段階の「寛容な人」とは、「他者の意見や考え方に対して共感と傾聴の姿勢で接し、多様性を尊重しながら相互理解を深めることができる」人物のことを言う。

「寛容な人」と聞くと、「何事も許してくれるような人物」をイメージしてしまいがちである。しかし、他者の意見に「共感するのみ」「傾聴するのみ」では、声の大きい人、主張の強い人の意見が通るだけで、「多様性の尊重」や「相互理解」には繋がらないとも考えられる。寛容でありながら互いを尊重したり、互いに理解したりするためには、上手に自身の意見を伝えることや、そうした「場」を作ることも大切だ。

本単元では、「アサーティブ・コミュニケーション」の技法を用いて教科書掲載教材である「ワールド・カフェ」を学び、実践することにより、学習者が相手の権利を侵害することなく、誠実に、率直に自己表現するような対等なコミュニケーションを知り、実践していくことをめざす。そのために、「話すこと・聞くこと」の思考力、判断力、表現力にあたる「論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論に出し方を工夫する」力を養っていく。

(2) 教材観

本教材は、三省堂『精選 現代の国語』採録の「ワールド・カフェ」の単元だ。「話すこと・聞くこと」を学習する領域である。アニー・ブラウン&デイビット・アイザックス著／香取一昭・川口大輔訳の『ワールド・カフェ——カフェ的会話が未来を創る——』（2007年、ヒューマンバリュー）から「大切な会話——ワールド・カフェへの招待」の文章が掲載され、「学びを広げる」という言語活動として「ワールド・カフェをやってみよう」が載っている。「大切な会話…」は、問題解決に必要な知恵と創造性を引き出す“会話の力”を認識するための教材である。さらに、そうした認識を育んだうえで身近な問題の中から「大切なテーマ」を発見し、ワールド・カフェを開催することが望ましい。

他の単元でも、授業において班の話合い活動は行われる機会が多い。本単元において有効なコミュニケーションを理解することで、他の単元で行う言語活動においても、学習効果をあげることが期待できる。ワールド・カフェでは、「カフェ・エチケット」と呼ばれる話合いのルールを考案することがよいとされている。カフェ・エチケットやワールド・カフェの企画書を作成する際に、アサーションを意識したい。そのために、戸田久実『アサーティブ・コミュニケーション』（2022年、日経文庫）も補助教材として用いる。

また、「ワールド・カフェ」においては、身近な問題から「大切なテーマ」を発見することが必要だとされている。テーマ設定において、既習単元で読んできた教科書教材と「附高」を掛け合わせることで、既習単元で扱われてきた文章のテーマを、改めて自身の問題として見つめ直すことも試みたい。例えば、単元「知らないものに出会う」では、「読書」がテーマであったが、「読書×附高」を大きなテーマとして設定することなどが考えられる。

(3) 児童・生徒観

本校生徒は、話し合い活動に積極的な生徒が多い。比較的自由な話し合いをさせても互いにコミュニケーションを取ることができる。しかし、話し合いをリードする人がいつも同じであったり、班の構成によっては話し合いがはかどらなかつたりすることもある。時には、話し合いに相応しくない言葉が使われることもある。

学習指導要領によれば、話し合い活動について次のような記述がある。

進行の仕方については、小学校第3学年及び第4学年のオの『進め方』から中学校第3学年のオの『進行の仕方』に至るまで系統的に指導している。このことを踏まえ、少人数での話し合いにおいても司会者や提案者などを立てるようにすることや、全ての参加者が話し合いの経緯を振り返ったりこれからの展開を考えたりすることなど、話し合いの進め方について、指導の工夫することが大切である。（指導要領 p.89）

池田地区でも、小学校2年生から話し合い活動の指導がされている。自分の意見を言うことに始まり、4年生からの本格的な話し合い活動に向けて段階的な指導がされている。中学生になると、ほとんど指導をしなくても、授業の中で話し合いをすることができるようになる。

高等学校では、そうした「自然にできる」話し合いを改めて見つめ直したい。これまで「司会」等の役割になってこなかった学習者も、進行の役割を理解し、実践することを期待する。すべての参加者が、よりよい話し合いの場づくりに貢献できることが、話し合いの学習の最終段階として望ましい。卒業後の実社会の生活を見据えた高い次元の話し合いができるようになりたい。

(4) 指導観

(3) 生徒観を踏まえ、本単元では、参加者全員が話し合いの進行、および、その進行の際に留意すべきことを考えるよう指導したい。そのために、ワールド・カフェの企画書を班で考える活動を取り入れる。人任せになることなく、全員が当事者意識を持ってワールド・カフェへのアサーティブな参加の仕方を考えることをめざす。

本単元は、全6時間の扱いとする。第1時は、本単元の概要と目標を知り、教科書掲載の「大切な会話——ワールド・カフェへの招待」の文章を読み、「ワールド・カフェ」とは何か、またその役割について理解する。第2時では、教科書掲載の「ワールド・カフェをやってみよう」を読んで、具体的なワールド・カフェの流れを理解した後、「アサーティブ・コミュニケーション」の文章を読んで、それらを踏まえて、「カフェ・エチケット」を考案する。この活動により、対等な話し合いのためにはどのようなことが必要かを深く考え、共通認識を持つ。第3時では、話し合う

テーマを考える。既習教材で扱われているテーマをクラスごとに選択し、「附高×○○」の「○○」に入れることで、大きなテーマとする。QFT (Question Formulation Technique) の手法を用いて、選択したテーマからより具体的な問いを考えていくことで、段階的にワールド・カフェで話し合うテーマに迫っていく。学習者は、国語の授業で扱う文章のテーマについて、当事者意識をもって捉えにくい場合がある。例えば、「多文化共生社会」は、教科書の「単元十」で扱われているテーマであるが、時に学習者は「多文化共生社会」を自分たちが生きる社会とは切り離された世界のことと捉えてしまう。「附高×教科書教材」という話し合いのテーマには、教科書の文章を自分たちに関わるものとして捉えてほしいというねらいがある。そのことにより、ワールド・カフェの「大切なテーマ」の発見につながると考えた。第4時では、班で「ワールド・カフェ企画書」を作成し、コンペ形式で実際に行う企画を決定する。学習者全員が企画を考えることに携わることで、当日進行の役割にあたらぬ人も、よい話し合いとは何かや、進行の役割について考え、一人ひとりが話し合いの場を作ることに貢献するように指導する。第5時では、実際に選ばれた企画書に従ってワールド・カフェを実施する。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワールド・カフェにおいて、話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。	ワールド・カフェの準備や実施を通して、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

5. 単元 or 題材の指導計画 (全6時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	「『大切な会話』——ワールド・カフェへの招待」を読解する。	本文の内容を理解している。	○		○	定期考査 ワークシート
2	「『ワールド・カフェ』をやってみよう」と、「アサーティブ・コミュニケーション」を読み内容を理解する。	本文の内容を理解している。	○		○	定期考査 ワークシート
3	・「体験ワーク」を実施する。 ・これまでの学習を踏まえ、「カフェ・エチケット」を考案する。 ・話し合うテーマ(附高×○○)をクラスごとで決定する。	「体験ワーク」に積極的に取り組んでいる。 前時を踏まえ、「カフェ・エチケット」を考えることができる。	●	●		行動の観察
4	・進行係(カフェ・ホスト)、ファシリテーター[進行チーム]を決定する。 ・グループごとに、QFTを用い	積極的に班活動に参加している。	●	●		行動の観察

	て、問い出しを行い、話し合うテーマをより具体的にする。					
5 (本時)	班ごとに「ワールド・カフェ企画書」を作成し、企画書コンペを実施する。 企画書の概要を班ごとに発表し、進行チームが当日実際に行う企画を決定する。	班活動を通して、他者と自己を尊重したコミュニケーションの実現のために深く考え、企画書を作成し、周囲に伝えることができている。	●	●		行動の観察 企画書の記述
6	ワールド・カフェを実施する。 振り返りを行う。			○		ワークシート

●・・・形成的評価(指導に活かす評価) ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。(A 話すこと・聞くこと オ)

(2) 本時の評価規準

班活動を通して、他者と自己を尊重したコミュニケーションの実現のために深く考え、企画書を作成し、周囲に伝えることができている。

(3) 本時の学習とグローバル市民コモン・ルーブリックとの関連

① 項目

寛容な人

② 内容

他者と自己を尊重したコミュニケーションの実現のために深く考え、成果物として表現する。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	本時の目標を説明する。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> 企画書を作成し、その中から選んだもので次の時間にワールド・カフェを実施することを明確に示すことで、作成の動機づけをする。 「企画書ひながた」を提示し、必要事項を説明する。 班に1名いるコーディネーターを中心に議論をすすめるよう促す。 	行動の観察

展開 35分	<p>班ごとに「ワールド・カフェ企画書」を作成する。企画書の内容として、前時に出した問いから「大切な問い」として班で8つ選択し、当日に各班で話すテーマとする。どのような基準で「大切」だとしたか、「アサーティブとなる工夫」（トーキングオブジェクト等）も各班で考案して企画書にする。（19分）</p> <p>企画書の要点を発表する。（2分×8班）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班の進捗に気を配り、進んでいない班には声かけをし、企画書作成について助言をする。 ・事前に配布する「企画書ひながた」は、必要事項がわかりやすいものにしておく。 ・教員のPC用いて、プロジェクタで企画書を投影し、班の代表者に説明させる。適宜教員から質問をする。 	<p>行動の観察 企画書の記述</p>
まとめ 10分	<p>進行チームが審査員となり、当日に実施する企画を決定し発表する。</p> <p>進行チームが審査している間、他の人は「もてなしの空間」の演出を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「進行チーム」に相談して、企画を1つ選ぶように促す。 	<p>行動の観察</p>

(5) 準備物

パソコン(教員), プロジェクタ(教員), chromebook(生徒), 提出用スライド, 「もてなしの空間」用Googleform

7. 参考文献

- Direct Communication「心理療法入門サイト」. <https://www.direct-commu.com/shinri/>, (2024年09月16日)
- Google「Google re:Work 『効果的なチームとは何か』を知る」. <https://rework.withgoogle.com/jp/>, (2024年08月02日)
- 茨城県教育研修センター「平成 24・25 年度 教育相談に関する研究」研究報告書第 84 号
- 坂本喜代子「心理的安全性を育てるアサーティブ対話」『月刊国語教育研究』2024 年2月号第 59 巻通巻 622 集, 日本国語教育学会
- 戸田久実『アサーティブ・コミュニケーション』(2022) 日経文庫
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング—さわやかに自己表現—のために—』(2009) 日本・精神技術研究所
- 堀田美保『アサーティブネス その実践に役立つ心理学』(2019) ナカニシヤ出版
- 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』(平成30年)

8. 資料:池田地区「グローバル市民」コモンルーブリック

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと、 新たな試みの視点 などから目標を持ち、その達成に向けて 自主的に粘り強く、創造的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 試みの視点 などから目標を持ち、その達成に向けて 自主的に粘り強く 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 試みの視点 などから目標を持ち、その達成に向けて 自主的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから目標を持ち、その達成に向けて 進んで 取り組むことができる。
つながりのある人	これまでの経験や知識を関連づけて 創造的に 物事を考え、 周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 地域社会の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 学校の人たちと協力して取り組む ことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え、 学級の人たちと力を合わせて取り組む ことができる。
探究力のある人	自らの問題として、 身近なコミュニティや世界の出来事 から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返りながら、創造的に追究 することができる。	自らの問題として、 身近なコミュニティ から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返りながら追究 することができる。	自らの問題として、 身の回り から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返り することができる。	自らの問題として、 身の回り の課題に気づき、その解決に向けて取り組むことができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して 共感と傾聴の姿勢 で接し、 多様性を尊重しながら相互理解 を深めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し、 多様性を受け入れ相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し、 相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接することができる。